

日米芸術交流 —スーニー・アディロンダック校と佐賀姉妹校間の取り組み—

田中知恵¹，木村安宏¹，上瀧泰嗣²，エドワード・クランドール³

(¹西九州大学短期大学部，²西九州大学子ども学部，³佐賀新聞元記者（翻訳家）)

(平成 25 年 12 月 18 日受理)

Exchange Program through Art between Sister Colleges in USA and Japan

Tomoe TANAKA¹，Yasuhiro KIMURA¹，Yasushi JOTAKI²，Edward CRANDOLL³

(¹*Nishikyusyu University Junior College*, ²*Faculty of Children's Studies, Nishikyusyu University*
³*Former Reporter for Saga Shinbun*)

(Accepted December 18, 2013)

日米芸術交流 —スーニー・アディロンダック校と佐賀姉妹校間の取り組み—

田中知恵¹，木村安宏¹，上瀧泰嗣²，エドワード・クランドール³

(¹西九州大学短期大学部, ²西九州大学子ども学部, ³佐賀新聞元記者 (翻訳家))

(平成 25 年 12 月 18 日受理)

Exchange Program through Art between Sister Colleges in USA and Japan

Tomoe TANAKA¹, Yasuhiro KIMURA¹, Yasushi JOTAKI², Edward CRANDOLL³

(¹*Nishikyusyu University Junior College*, ²*Faculty of Children's Studies, Nishikyusyu University*
³*Former Reporter for Saga Shinbun*)

(Accepted December 18, 2013)

Abstract

We reports about Exchange Program through Art between Sister Colleges in USA and Japan for the year 2010-2012.

We planned a project for the first art exchange which had two exhibitions on the theme, “ART and POETRY” in USA and Japan. We had a vision which would highlight the work of artists from each college.

The first exhibition was held at Visual Arts Gallery in SUNY Adirondack from September 1 to October 7, 2011. A booklet on our works was finished at the same time. The second one was held from May 22, 2012 to June 3 at Saga City Library in Saga with the support from Saga City International Relations Association and Saga City. We introduced about the works of Nishikyusyu University and Nishikyusyu University Junior College of the whole works in this paper.

Key word : 国際交流
芸術
詩
展覧会

1. はじめに

スーニー・アディロンダック (SUNY Adirondack) はアメリカ合衆国ニューヨーク州の北東部クインズベリ町にあり、ニューヨーク州立大学機構 (State University of New York; SUNY system) に属するコミュニティ・カレッジである。1961年に2年制のアディロンダック・コミュニティ・カレッジ (ACC) として創立し、様々な準学士 (Associate Degree) コースや資格取得プログラムを提供してきた。2010年3月には“スーニー・アディロンダック”に名称変更し、現在では同キャンパス内でスーニーシステムを利用した学士 (Bachelor's Degree) や修士 (Master's Degree) コースの受講も可能となっている。本学はこのスーニー・アディロンダックと短期交換留学プログラムを設け、これまで相互交流を図ってきた。

交流の契機となったのは姉妹都市交流とバルーンである。スーニー・アディロンダックのある地域、グレンズフォールズ市・ウオーリン郡 (クインズベリ町を含む) との間には1986年の佐賀インターナショナル・バルーンフェスタより交流が生まれ、1988年3月には姉妹都市となった。これ以降、市民レベルでのスポーツや文化交流に加え両都市の中高生の相互訪問も活発に行われてきた。このような交流が深まっていく中、佐賀市と佐賀市国際交流協会の仲介により大学間協議が開始され相互訪問の受入内容と日程が決められた。1996年7月、佐賀市の佐賀短期大学、佐賀女子短期大学からアディロンダック・コミュニティ・カレッジ (ACC) への第1回訪問団が派遣された。同年8月には、両短期大学とACCとの間で姉妹校提携がなされた。翌1997年5月は佐賀での第1回ACC訪問団の受け入れ、ACCから学生5名と引率者としてシェルダン・ハースト教授が訪れた。ハースト教授の最初の佐賀訪問では教授による芸術に関する講演も行われ、この講演を木村教授も聴講している。このようにして1年毎に佐賀2短大とACCとの間で相互訪問が行われ約2週間の短期交換留学プログラムが実施されるようになった。2001年のアメリカ同時多発テロ事件 (9.11) 後は一時訪問が中断されたが、2006年5月に再開され、ACC訪問団を受け入れた。2009年3月は筆者の1名である田中准教授が西九州大学学生6名と西九州大学短期大学部学生1名を引率しACCを訪問した。

2010年5月下旬 (学生研修期間5/24～6/6)、スーニー・アディロンダック学長 (Dr. Ronald C. Heacock) (前半滞在) と学生9名及び引率教員1名が佐賀を訪れた。訪問団は佐賀の芸術と文化をテーマに西九州大学短期大学部 (前半)、佐賀女子短期大学 (後半) へ約2週間短期研修を行った。研修では引率教員シェルダン・ハースト

教授 (学生部長、専門：美術史) の要望があり、佐賀県立美術館の学芸員との交流、我々西九州大学及び短期大学部の美術教員の工房見学等を行った。その間、教員同士の芸術に関する相互交流が行われ活発な意見交換がなされた。特に上瀧教授アトリエでの美術教員対談は日米の芸術について多くの内容が語られ、同行し通訳を務めたエドワード・克蘭ドール記者 (佐賀新聞) が後日記事として掲載している。このような相互交流を経てハースト教授は我々に日米、東と西の芸術交流に向け具体的な提案を行った。

この訪問ではスーニー・アディロンダック側から両学園に短期交換留学から中期・長期交流など更に活発な相互交流を行いたいとの書簡が送られていた。前年度の西九州大学学生のスーニー・アディロンダックへの研修とこのヒーコック学長の佐賀訪問を契機に学園全体としてスーニー・アディロンダックとの学術交流推進が検討されたのである。同年11月に永原学園として正式な学術交流協定が結ばれた。その後、佐賀女子短期大学も正式な協定を進め、現在は協定を締結している。このように今回の芸術交流開始の時期は学園全体の学術交流を推進する体制が整備され始めた時期であった。

本稿では2010年5月から2012年6月までの間に行われた相互交流の中で教員間の芸術交流を取り上げたい。

2. 日米芸術交流

2.1 WEST EAST 西東 POETRY & ART 展の開催と作品集の作成

学生間の短期交換留学プログラムとして継続してきた交流は、2010年5月のスーニー・アディロンダックの佐賀訪問を機に新たな展開を迎えた。

引率のハースト教授は大学内美術館館長 (美術教員) であり、グレンズフォールズ市にある美術館の元学芸員でもある。上記5月の研修のテーマには「芸術と文化」を取り上げアディロンダックのそれぞれの学生に対してミッションを与えていた。研修内容についてもリクエストがあったことから我々、プログラム担当者と美術教員を中心に約2週間の滞在期間中に県立美術館での学芸員との交流会、本学教員を含め佐賀在住の芸術家の工房見学等を企画した。この見学の際に芸術との関わりも深く本学の元非常勤講師であり当時佐賀新聞記者であった克蘭ドール氏の協力を仰いだ。これがきっかけとなり本交流事業に克蘭ドール氏が協力、参加するようになった。

スーニー・アディロンダックはキャンパス内に美術館を保有し大学全体に多くの絵画や美術品をも所蔵している。特にハースト教授と親交の深かった詩人、故ウィリアム・ブロンクのコレクションは印象的である。一方、

佐賀側には数名の美術教員がおり、佐賀を拠点に作家活動をしている。日米の芸術交流としてはこれまで個人間で数点の作品の行き来があった程度であり、双方の作家達の実績を披露する両国間の展覧会は開催されることがない。そこで日米教員の作品・業績の公表を目的に相互の地域における展覧会開催のプロジェクトを企画した。更にハースト教授から一つの提案があった。「芸術」と「詩」のコラボレーションである。これはハースト教授が長年行ってきた試みでありその内容については彼の編集した冊子“ART & POETRY SERIES”に記述されている。アディロンダック所蔵のW・ブロンクコレクションは詩人であるブロンク氏が創作活動のインスピレーションを得る素材であった。今回、絵画と詩を同時に創作し、芸術家の作品と詩を同時に掲載した作品集を制作

した。詩は日本語・英語の2ヶ国語で記す企画であった。佐賀側では双方の作品をやり取りする国際的な展覧会も初の試みであり、作品の素材と運搬方法の検討など作成段階から展覧会実施までの道程は容易ではなかった。

我々は、多くの協力者を得ながら何とか第1回目のWEST EAST 展の開催を迎えた。展覧会は2011年9月1日から10月7日にスーニー・アディロンダック内にあるヴィジュアル・アーツ・ギャラリーで開催され、大変好評であった。この期間に作品集¹⁾も完成し関係者に配布された。9月14日から16日には佐賀側を代表し木村教授がスーニー・アディロンダックを訪問し、大学及び美術館見学を果たし、展覧会レセプション（9月15日開催）に出席した。

一方、第2回目のWEST EAST 展は、佐賀市と佐賀



写真1, 2, 3 第1回西東展覧会（Visual Arts Gallery）
館内の展示風景



写真4 木村教授と作品



写真5 レセプション開催時の館内

市国際交流協会の後援を得て2012年5月22日から6月3日までの13日間、佐賀市立図書館2階ギャラリーにて開催した。開催期間については計画当初は2012年1月下旬を予定していたが、5月のスーニー・アディロンダック佐賀訪問時に変更し交換留学プログラム中に双方の学

生の展覧会見学を取り入れた。また、レセプションも交換留学生歓迎会（佐賀女子短期大学キャンパスで開催）と同時開催した。訪問団の中には引率教員としてハースト教授、研修生として冊子の表紙をデザインしたスーザン・ピアースさんが参加した。



写真6 第2回西東展覧会（佐賀市立図書館）
館内風景



写真7 木村教授の作品



写真8 学生の見学の様子



写真9 スーザン・ピアースさんデザイン
西東展の冊子表紙

2.2 作品紹介

本稿では、西東展覧会に出品された作品について米国に搬送された佐賀側作品を表1に示し、創作した詩や作品についての詳細は西九州大学及び西九州大学短期大学部関係者のみ紹介する。スーニー・アディロンダック側の画家8名と詩人6名、佐賀女子短期大学側の画家3名と詩人3名の作品については、ハースト教授監修の冊子¹⁾及び佐賀女子短大研究紀要²⁾を参照されたい。それぞれの作品に提供された詩の英語訳とスーニー・アディロンダック側の詩の日本語訳については、クランドール氏が行った。

2.2.1 上瀧恭嗣の作品

ANXIETY SEQUENCE

by Atsuko Yamaura

The stars were ablaze
I was wandering in a bottomless murkiness
I couldn't see anything at all
I had no ears to hear the winds
Whispering from season to season

表1 スーニー・アディロンダック校へ搬送された作品

西九州大学・西九州大学短期大学部関係				
作品No.	作品のタイトル	作成者	寸法 (縦×横×高さ cm)	素 材
NUA1	安全神話の崩壊	上瀧泰嗣	65.5 × 50	紙・アクリル絵具
NUA2	彷徨する人	上瀧泰嗣	65.5 × 50	紙・アクリル絵具
NUA3	不安の連鎖	上瀧泰嗣	65.5 × 50	紙・アクリル絵具
NUA4	不安の刻	上瀧泰嗣	65.5 × 50	紙・アクリル絵具
NUA5	期待 (大きな鳥)	木村安宏	30 × 30 × 90	木・彫刻
佐賀女子短期大学関係				
作品No.	作品のタイトル	作成者	寸法 (縦×横×高さ cm)	素 材
SWA1	YOSH1'11-3.11(A)	山田直行	60 × 50	紙・アクリル絵具
SWA2	YOSH1'11-3.11(B)	山田直行	60 × 50	紙・アクリル絵具
SWA3	YOSH1'11-3.11(C)	山田直行	60 × 50	紙・アクリル絵具
SWA4	Nostalgia	花山院路子	65.5 × 50.5	紙・インクジェット
SWA5	Tattoo	花山院路子	65.5 × 50.5	紙・インクジェット
SWA6	Emotional Experience	花山院路子	65.5 × 50.5	紙・インクジェット
SWA7	HUDO	塩月悠	67 × 50	紙・ミクストメディア
SWA8	光学	塩月悠	65.5 × 50.5	紙・インクジェット
SWA9	不動論	塩月悠	65.5 × 50.5	紙・インクジェット



写真 10 上瀧教授の作品 NUA1



写真 11 上瀧教授の作品 NUA2



写真 12 上瀧教授の作品 NUA3



写真 13 上瀧教授の作品 NUA4

All connections were cut
And the soothing sleep of my memories was gone

As the globe revolves
I write mercilessly
Surrounded by the plains, the seas, the dwellings of the
beasts
And I look up at the sky with its clear star map
As if pricked I release an arrow of irrational desires
From far away a scream trails off
We are all accomplices
We crush to death alluring passions
And in the arrogant shade of a tree
We smile

The rain stops
The land, covered in burgeoning green,
Peels away the deep scratch marks
We have left
And the word "grace," which lights the gouged out
valley,
Turns pale and is washed away

I wonder if we can return to
The nostalgic forest in our hearts
In our image, reflected in the gaze of birds pecking at
the treetops,
A gaze pointed toward forever,
There is a sin that must be redeemed

ANXIETY SEQUENCE II

by Atsuko Yamaura

We have lost
A living memory in a soft gaze
We accept one small voice
We have lost
The hollow in the heart where the spirit resides

A brightly shining techno polis
The whisperings beneath its mask
Are swallowed by a blinding flash
We lie face down on the ground of a distant conflict
A prayer from despair
Is like a tree leaf that has fallen into a mire
It reaches no one

You flew into the swirl of light

Without any hesitation
And ran up the stairway to the future
You flung open an invisible window
Pushed open a door with no knob
And once on the roof flew up into the sky
As if someone were manipulating you with strings

You are not the only one
Who falls, covered in the silence between dream and
reality
You lose sight of hearts that were once bound together
The ground is wrapped in doubt
And false seeds swell

You soothe your wound with you tongue
As all living things turn their quiet eyes
Toward the cloudy sky
What threatens us
Ceaselessly
Is the sound of a head cold
Blowing through hollow bodies

Where are we?
Where are we going?

We open wide eyes that cannot see
We strain ears that cannot hear
Drift away
Someday when we're in the terminal sky I suppose
we'll hear it
A voice questioning the soul

不安の連鎖

山浦 敦子

星は燃えつき
私たちは底なしの不透明に彷徨う
目の前にあるものは見えず
季節ごとの風のささやきを
聞き分ける耳も持たない
つながりは絶たれ
ひとり追憶にくつろぐ眠りも失って

地球儀を回しながら
平原に 海に 鳥獣の住処に
容赦なく筆を下ろし囲み込んでいく

そして見上げる星図の澄んだ空へ
衝かれたように非望の矢を放った
はるか遠く尾を引いて消える叫び声
私たちはみな共犯者
引きつれた感情をおしこして
倨傲の木陰で微笑んでいた

雨がやみ
緑を芽吹いた大地は
私たちが引っかいた
深い爪跡を剥き出しにしている
そのえぐられた谷を
灯のようにともっていた
恩恵という言葉が青ざめて流れてゆく

胸の奥の懐かしい森に
帰り着くことはできるのだろうか
梢に啄ばむ鳥の
永遠に向けられた眼差しの中に写る
自らの姿に
償わなければならない罪過を
見つめる日はくるのだろうか

時は穏やかな歩調で
私たちの屍をまたいでゆく

暗闇の呪縛から這い出して
大きくいのちを膨らませる
一匹の蟲
その柔らかい呼吸に包まれて
運ばれていく私たち
静かなひかりに
呼び覚まされる
予感をたたえて

不安の連鎖 II

山浦 敦子

わたしたちは失った
やわらかい眼差しのなかで
生きていた記憶を
小さな一つの声を受けとめる
魂の宿る心のくぼみを

明るく照らし出される
テクノポリス
その仮面の下のつぶやきは
まぶしい閃光に呑みこまれてしまう

遠い紛争の地に身を伏せる
絶望からの祈りは
ぬかるみに落ちた木の葉のようだ
もう誰にもとどかずに

あなたはためらうことなく
ひかり渦巻く嵐に飛び込み
未来への階段を駆けのぼっていった
見えない窓を開け放ち
取っ手のない扉を押し開け
操られるように
屋上から空へと舞い上がったのだ

夢と現実の間を
沈黙に覆われて落ちていくのは
あなただけではない
結ばれていた心は見えなくなり
地上は疑いにつつまれ
偽りの種がふくらんでいく

傷口を
自らの舌で癒しながら
いきものたちは
静かな眼を曇り空に向けている
絶え間なく
わたしたちを脅かすのは
空洞のからだを吹き抜ける
風の音

ここはどこなのか
どこへ向かうのか

見えない眼を見開き
聞こえない耳を澄まして
漂いゆき
いつか終焉の空で聞くだろう
魂の問いかける声を

詩提供者 山浦敦子（Atsuko Yamaura）氏について

高校時代より詩を書き始める。学生時代、藤原定らの詩誌「花粉」に誘われ試作に傾倒。その後中断し、1990年に再開。「詩と思想」に作品を発表。佐賀県文学賞部門審査員を経て、現在は詩誌「扉」同人。「佐賀連詩」「詩を語る会」の世話人として活動。著作は詩集「黒板」、記録「町の図書館をつくる」。

2.2.2 木村安宏の作品



写真 14, 15 木村教授の作品 NUA5

CAMPHOR TREE

by Kazuya Kohno

I stopped beneath a large camphor tree
The wind was blowing past.
The branches shook, the leaves rustled,
And one by one wave arose and rushed away.

Small birds flitted from branch to branch,
loudly chirping to each other.

The sunshine filtering through the foliage flickered,
and droplets of sunlight fell into the shadows.

I sat at the great root of the tree
to get out of the sun.

The branches shook, the leaves rustled, the little birds
sang,

Enchanted by this wondrous melody,
I dozed off.

I was adrift in the spaces between the sounds.

Then finally I realized that I was here.
And that time had passed.
Time.

The branches shook, the leaves fluttered, the little
birds enjoyed their songs.

And once again I started off walking...into the
sunshine...
And out of my dreamtime.

楠の木

高野 一也

大きな楠の木の下で足を止めた。
風が渡っている。
枝は揺れ、葉はいっせいにざわめき
次々と波が生まれ、走り去る。

小鳥は枝から枝へ飛び回り、
高らかに、啼き合う。

木漏れ日がきらめき、
光の粒が 日陰の中に こぼれる。

私は日差しを避けて、
大きな根元に、腰を下ろした。

枝は揺らぎ、葉はざわめき、小鳥はうたう。

不思議な調べに誘われて、
いつしか まどろんでしまった。
心地よい 音のハザマを漂い—

やがて気がつく、この場所に。
時間が過ぎたことを。

とき
枝は揺らぎ 葉はそよぎ、小鳥は楽しく うたう。

ふたたび 歩き出す。 日差しの中へと。
ひとときの夢の中から—

詩提供者 高野 一也 (Kohno Kazuya) 氏について
高校時代より詩の創作活動を始め、途中挫折しながらも少しずつ書き溜めている。職歴豊富。福岡 金文堂書店に入社し 20 数年となる。現在、同店の外商部勤務の傍ら、フリーで詩や短歌・俳句の創作活動を行なっている。現在、二科会写真部に所属し、写真家としても活動している。

3. おわりに

本稿は 2010 年 5 月から 2012 年 6 月までの間に行われた教員間の芸術交流について 2 年間の取組みをまとめた。1996 年 7 月の学生の文化交流から相互理解を深め約 15 年を経て教員間の芸術・文化交流へと発展した。多くの協力者を得て日米両国での展覧会と日本語・英語の二ヶ国語で掲載した冊子が完成した。一つ一つの実績を積み重ね、今後更に教員同士の交流を発展させ第 2 回目の事業や共同研究に結びつくことが期待される。

謝 辞

この芸術交流に対し深い理解を示し実施にご尽力下さった姉妹校 4 校の学長

スーニー・アディロンダック R. ヒーコック学長

西九州大学 向井常博学長

佐賀女子短期大学 山田直行学長

永原学園理事長・西九州大学短期大学部福元裕二学長

に厚く感謝申し上げます。山田学長は佐賀側の画家としても本事業の推進にご尽力下さいました。福元理事長は大学・短期大学部の学長兼務の中、開始当初から本事業に参加、ご協力頂きました。重ねてお礼申し上げます。

芸術と詩のコラボレーションのため詩をご提供下さった山浦敦子様、高野一也様、日米の芸術家の皆様に深くお礼申し上げます。

西側展の開催にお力添え下さった佐賀市国際交流協会と馬場三佳さん、佐賀市立図書館、そして遠く西のグレンズフォールズの姉妹都市協会と高美里さんに深く感謝致します。

作品の搬送とスーニー・アディロンダック主催西東展の開催にご尽力頂いたヴィジュアル・アート・ギャラリー 現館長 (Ms. Rebecca Pelchar) に深く感謝致します。

学生間の交換留学プログラムと合わせスーニー・アディロンダックとの交流で常にご協力下さった佐賀女子短期大学郡山桂子先生と西山正廣先生をはじめこの交流に関わり支えて下さった全ての皆様に感謝申し上げます。

最後に長きに亘り姉妹都市交流と学生間の交流に貢献された芸術交流の生みの親ハースト元教授に深く感謝致します。

参考文献

- 1) W. Sheldon Hurst 編: WEST EAST 西東 POETRY & ART、(2011) (SUNY Adirondack, USA)
- 2) 郡山桂子: 米国姉妹校 アディロンダック・コミュニティ・カレッジとの芸術交流について、佐賀女子短大研究紀要 46 (2012)